

創世記 第1章 3節

「神は仰せられた。『光があれ。』すると光があった。」

光があれ、とみことばが放たれると光があった。みことばと光の現われが、みことばを聞く者には同時の出来事となる。語られることがそのように成る。語られたことばが微塵のズレもなく出来事となり実現する。あまりにも現実離れた事柄に驚きをもって聴くみことばである。

出発進行と唱え走り出す電車は号令通り動き出す。転勤や派遣命令の言葉は人々をそのように動かす。放たれた言葉と出来事の一致は日常生活でも見聞することではあります。しかし、言葉と出来事の不一致で悩まされること、失望、落胆することも多々あります。むしろ、言葉と出来事の齟齬がほとんどではないかと思われれます。

冒頭にあげた、みことばと出来事の同時的一致は、少なくとも二つの点から他に見られないことです。一つは、唯一無二の神の御口から放たれたみことばであることです。すべての存在と行く末がかかっている神が放たれたみことばです。そして、もう一つは、なにも存在しないところに放たれたみことばということです。なにも無いところにみことばが放たれ、光があった。みことばのちからの現れです。

2022年6月22日